

大慈寺(糠塚)調査報告書-1

沿革及び伽藍



大慈寺(糠塚)伽藍

調査員 月舘 敏栄

調査期間 平成29年9月4日～11月6日

1. 大慈寺(糠塚)の沿革

福聚山大慈寺は通称「糠塚大慈寺」と呼ばれ、八戸市松館にある大慈寺の本寺に当たる寺である。これまでの県重宝指定時の慣習に倣って、以後「大慈寺(糠塚)」の名称を使う。

大慈寺(糠塚)は、八戸城下の宿寺として延宝年間(1673-1681)に四世明鑑幡察和尚が長者山南側裾野に創立した曹洞宗の寺であり、天保元年(1830)頃に大慈寺(松館)の宿寺から本寺に格上げされた。

大慈寺(糠塚)は、八戸南部家二代藩主直政や三代藩主通信と深い縁があるだけでなく、野村軍記や大沢多門などの重臣の墓もある八戸南部藩に縁のある寺院である。「八戸藩御勘定日記」及「八戸藩史料」によれば、天明3年(1783)、天保7年(1836)、天保十年(1839)に「大慈寺御救小屋」を建てて、藩民の救済に当たっている。

大慈寺(糠塚)伽藍の建立年代に関わる古記録は、新位牌堂・坐禅堂落慶 先住休廣忌法要 記念誌の「八戸糠塚 福聚山 大慈寺 寺誌」にまとめられている。

八戸城下の宿寺になった延宝年間(1673-1681)に本堂及び庫裡を建立したことが福聚山大慈寺(糠塚)の始まりであるが、現行の伽藍は文化2年(1805)に本堂を再建したことに始まる。文化11年(1814)に鐘楼及び観音堂再建の棟札が残っているので、延宝年間の本堂及庫裡建立から間を置かずに鐘楼及観音堂が建てられた推定される。文政2～3年(1819-20)には庫裡を再建し、裏門と長屋を建てている。庫裡は生活の変化に合わせて改造しながら使われている。天保2年(1831)に山門、安政2年(1855)に薬師堂、安政5年(1858)には長年の夢であった経蔵を建立し、元治元年(1864)に鎮守稻荷堂を再建して大慈寺(糠塚)の七堂伽藍が整ったと考えられる。

昭和30年(1955)に本堂を茅葺き屋根から唐破風付き向拝及び千鳥破風付入母屋屋根に大改修を行った。昭和42年(1967)に鐘楼を再建し、昭和52年(1977)に薬師堂跡地に福聚会館新築し、平成19年(2007)に新位牌堂及新坐禅堂新築して現在に至っている。

大慈寺(糠塚)伽藍を建立年代順にまとめると表-1の通りである。

表-1 大慈寺(糠塚)の沿革

和 暦	西 暦	
延宝年間	(1673-81)	本堂及び庫裡を建立
文化 2年	(1805)	本堂再建
文化11年	(1814)	鐘楼及び観音堂再建
文政2～3	(1819-20)	庫裡再建及び裏門並びに長屋建立
天保 2年	(1831)	山門建立
安政 2年	(1855)	薬師堂建立
安政 5年	(1858)	経蔵建立
元治 元年	(1864)	鎮守稻荷堂再建
昭和30年	(1955)	本堂大改修
昭和42年	(1967)	鐘楼再建
昭和52年	(1977)	薬師堂跡地に福聚会館新築
平成19年	(2007)	新位牌堂及新坐禅堂新築

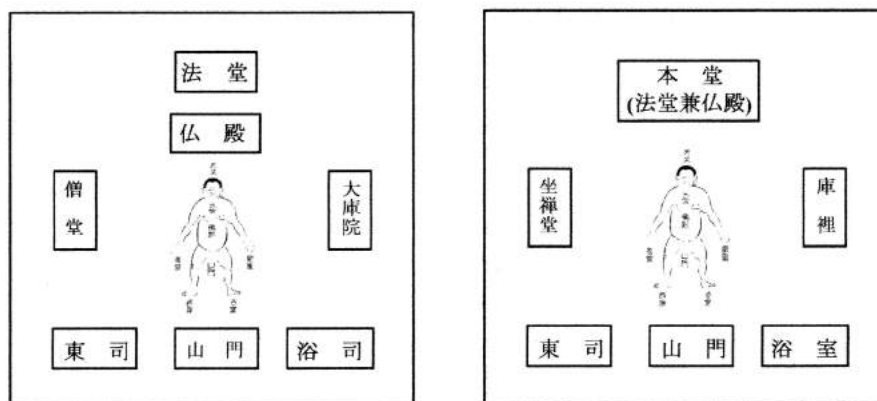
幕末に大慈寺(糠塚)の伽藍が整ったと考えられるが、明治40年(1907)の糠部五郡小史に寄れば、大慈寺(糠塚)の当時の伽藍は下記の通りである。

表-2 「糠部五郡小史」における伽藍規模

	規 模		
本 堂	9間4尺5寸	× 8間1尺2寸	約17.73m × 約14.91m
庫 裡	6間	× 12間	約10.91m × 約21.82m
納 所	2間	× 3間	約 3.64m × 約 5.45m
廊 下	2間3尺	× 3間	約 4.55m × 約 5.45m
山 門	3間3尺	× 2間	約 6.36m × 約 3.64m
裏 門	3間	× 2間3尺	約 5.45m × 約 4.55m
衆寮禅堂	6間3尺	× 4間3尺	約11.82m × 約 8.18m
鐘 楼	1間3尺四方		約 2.73m 四方
経蔵文庫	5間四方		約 9.09m 四方
境 内	東西 約百間	南北 約百間	5,243坪9合余 約17,305㎡

現在の伽藍と比較すると、本堂・庫裡・山門・衆寮禅堂(現坐禅堂)・鐘楼・経蔵文庫(現経蔵)は現存するが、薬師堂(現福聚会館)・稲荷堂・観音堂・開山堂については記述されていない。主要伽藍の棟札が残されているだけでなく、広大な境内に多様な伽藍が揃った寺院であったことがわかる。

禅宗の七堂伽藍は、中国宋代の伽藍配置を規範にした<山門・仏殿・法堂>を南北軸に並べ、仏殿の東西に僧堂と庫院を配し、山門の両側に東司(東浄)と浴室を配置する人体に倣って伽藍配置する形式である。福聚山大慈寺の本堂は法堂と仏殿を兼ねた小規模ながら県内では珍しい七堂伽藍が整った境内である。



永平寺 七堂伽藍

福聚山大慈寺 七堂伽藍

図-1 七堂伽藍の配置

前述したの本堂・庫裡・鐘楼・山門・稲荷堂・薬師堂・経蔵・薬師堂に関しては、大工棟梁などを記述した棟札が残っている。禅宗様に和様の形式を加味した山門と経蔵は、用途と意匠に優れているため、昭和38年(1963)に八戸市の文化財に指定されている。

2. 伽藍と県重宝申請建造物

大慈寺(糠塚)の主要伽藍は10棟の中の「本堂・山門・経蔵」が県重宝申請建造物である。

	施設名	摘 要	調査報告
1	本 堂	文化2年(1805)に建立、昭和30年(1955)に内部を活かして茅葺屋根から鉄板葺入母屋屋根に改修した。前庭には右邊三匝の円形石畳あり。	調査報告書 2
2	山 門	天保2年(1831)建築、三間一戸の楼門、琴柱花頭窓型の通路、鉄板葺入母屋屋根(当初柿葺)、八戸市指定文化財	調査報告書 3
3	経 蔵	安政5年(1858)竣工、大型転輪蔵を内蔵する東北地方では珍しい転輪蔵の覆屋、棧瓦葺裳腰付方形屋根、八戸市指定文化財。	調査報告書 4
4	開山堂	開祖及び歴代住職の位牌堂、本堂と同時期の建築と推定される。昭和30年(1955)の改修時に渡廊下で本堂と繋いだ。	
5	薬師堂 (現福聚会館)	安政二年(1855)に薬師堂建設、昭和52年(1977)に新位牌堂・福聚会館に建て替えた。	
6	衆寮禅堂 (現坐禅堂)	糠部五郡小史(明治40年、1907)に衆寮禅堂の記述あり、平成19年(2007)に現坐禅堂に建て替えた。	
7	庫 裡	文政2～3年(1819-20)に庫裡を再建、内部は生活のための改造多し。	
8	鐘 楼	文化11年(1814)に鐘楼再建、昭和42年(1967)に現鐘楼に建て替えたが、老朽化が著しい。	
9	観音堂	文化11年(1814)に観音堂再建、昭和10年(1935)に後部を半間増築した。	
10	稻荷堂	元文5年(1740)に最初の稻荷堂建立、元治元年(1864)に鎮守稻荷堂として再建	

3. 文献等

- (1) 「青森県の近世社寺建築」 (I)、(II)
- (2) 文化財シリーズ「第28号 八戸の社寺建築 上」、「第29号 八戸の社寺建築 下」
- (3) 「曹洞宗 糠塚福聚山 福聚山大慈寺 写真と年表」
- (4) 「八戸糠塚 福聚山 大慈寺 寺誌」
- (5) 「青森県史 文化財編 建築」

4. 伽藍配置

